

中国出土資料学会會報

2023年7月1日 第76号

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学東洋文化研究所 小寺研究室内 中国出土資料学会（事務局）

Tel : 03-5841-5843 e-mail : office@shutsudo.jp

<http://www.shutsudo.jp/>

◆目次◆

2022年度第2回大会（総78回）報告.....	1
特別寄稿：オンライン研究会「战国秦汉简牍在线研读会」開催報告	
宗 周太郎（大谷大学文学部）.....	3
学会彙報.....	7

《2022年度第2回大会（総78回）報告》：2022年12月3日（土）ハイブリッド開催

（I）中国出土資料に見える古漢字情報のテキストデータ化—RDF化への検討—

片倉峻平（東京国立博物館アソシエイトフェロー）

人文学研究ではもはやコンピュータの利用は不可欠なものとなりつつあり、歴史・言語・思想など多方面の分野でテキストデータや画像データを巧みに活用する研究が増加している。中国出土資料に見える古漢字の情報に対しても適切にデジタル化を進めることが出来れば資料を用いた研究の幅が広がることが期待されるが、古漢字情報デジタル化への議論は未だ充分になされていないのが現状である。

そこで本報告では出土資料に見える古漢字情報のテキストデータ化について検討を加えるため、いくつかの文献内の解読情報を典拠として発表者が試みに作成してきたExcelファイルのテキストデータベースを紹介した。また、このデータベースの応用例として検索機能及び画像表示機能を備えたデジタルアーカイブのデモンストレーションを示した。報告後半では、テキストデータの記述方法について、ExcelファイルだけでなくRDF（Resource Description Framework）という手法を用いるとどのような整理・表現が可能となるのか考察を加えた。

デジタルアーカイブを利用した古漢字情報の照会において要となるのは古漢字の画像情報であるが、現況では出土資料の画像情報は資料所蔵機関によりオープン化され公開されているわけではない。そのため出版されている図版から取り込んだ画像を個人で勝手に公開してしまうと権利問題に発展する恐れもあり、安易にはデジタルアーカイブに画像情報を組み込めない。報告ではこの画像

問題がデジタルアーカイブ作成の大きな課題として残っていることを再確認した。また Excel や RDF などのデータ記述手法にはそれぞれ一長一短があり、用途に応じて適切なデータを利用することも肝要である。本報告で紹介したようなデータの作成というのは決して最終目的ではなく、あくまでもそのデータを利用した先にある研究に資するためのものであるため、どのような研究用途が考えられるのかということ常を常に念頭に置いたうえで適切な記述を模索し続けなければならない。

(II) 清華簡「鄭武夫人規孺子」と春秋時代の国君夫人の役割の変遷

平林 美理（早稲田大学文学学術院助手）

清華大学蔵戦国竹簡「鄭武夫人規孺子」は、春秋初期の鄭の武公夫人からその子・莊公への訓戒と、大夫鼻父らと莊公の対話で構成されている。武公夫人は『左伝』・『史記』では武姜という名で見え、莊公と共叔段を産んだものの共叔段を寵愛して莊公と対立し、鄭の内紛を招いたとされる。本簡はこの内紛に先立つ莊公即位時の出来事として記述されているが、語彙の面からは戦国期成書と推定される。また、本簡の内容に母子の対立は窺えず、武公夫人は「先君以来の大夫らに政治を任せるよう新君へ訓戒を行い、政治への関与を自戒する賢夫人」として描写されている。本報告では主に武公夫人の訓戒の内容面について、伝世文献での国君夫人の役割等との比較から検討を行った。

本簡の武公夫人の言動には先君夫人が特定の大夫に公子を「屬」して後見を求める習慣との関連が窺え、春秋初期の先君夫人・国君・大夫の三者の関係と新君即位時の夫人の役割が反映されている。一方で、夫人が国君に賢臣のような形で訓戒・諫言を行う例は春秋時代には少なく、本簡の武公夫人の描写自体は後代のものと考えられる。国君に対する親族・姻戚の影響力の排除を勧めている点も、春秋初期の国君夫人・その実家・出嫁先の関係性や同姓諸侯間関係よりも、それらの結び付きが弱まった後代の価値観を窺わせる。莊公即位後の鄭は、同姓の周・衛・蔡・魯との対立や、莊公死後の姻戚・宋の介入を始めとした公位継承の混乱などの問題を抱えており、訓戒はそのことを前提とした後代の視点によるものとも考えられる。なお、大夫らに政治を委ねる一方で武公夫人と鼻父の訓戒はともに、下級役人などの寵臣の言を排すよう求めている。同じ清華簡の『繫年』や「文公問太伯」が武公-莊公-厲公-文公の系譜を正統視することを踏まえると、本簡も同様の視点から、厲公と対立関係にあった鄭の下級役人出身の有力政治家・祭仲を莊公が重用したことを意識したものである可能性も想定すべきであろう。

(III) 和泉市久保惣記念美術館蔵古璽的調査與研究

劉海宇（岩手大学平泉文化研究中心教授）、松村一徳（印章之路研究所所長）

和泉市久保惣記念美術館現蔵古璽印 645 方，包括《平盒攷藏古璽印選》所收 641 方以及所未收唐宋印 4 方，這些藏品均為園田湖城（1886-1968）的舊藏。園田湖城出生於篆刻世家，本名耕作，字清卿，後改為穆，號平盒，是近代著名的篆刻家、古璽印收藏家，歷任日展審查員、日本書道聯盟理

事、同風印社主宰等職，發行篆刻雜誌《印印》，又曾為藤井有鄰館等美術館整理古璽印藏品。他在古璽印的鑒別和收藏領域成就卓著，與太田孝太郎（號夢庵，1881-1967）齊名。他又精通古銅印譜的製作，曾發行自藏古璽印印譜十餘種，製作他人所藏古璽印的印譜十餘種。久保惣株式會社於1988年購進園田湖城舊藏古璽印以及印譜等資料共計1320件，於2004年將這些藏品捐贈給和泉市久保惣記念美術館。

本文調查整理篇首次公佈久保惣記念美術館藏古璽176方的印面與印鈕的照片、詳細尺寸與重量，整理印譜《平盦》與久保惣記念美術館藏品編號的異同。因園田湖城所發行舊譜流傳不廣，而且舊譜均沒有印鈕與印面的照片，本文以合乎研究與鑒賞的體例，為學界提供了一批全方位的古璽資料。研究篇結合近年來戰國文字的最新研究成果對部分古璽進行了研究和考釋，指出“榑”、“𣪠”、“𣪡”等字在出土古文字資料中為新見字形，同時考釋出楚系私璽“菴效（教）”的“效（教）”字，將迄今釋為“邾”的三晉系璽文“𣪢”改釋為“邾”，又將迄今釋為“獻”的古璽文“𣪣”改釋為“處”。

《特別寄稿》

オンライン研究会「战国秦汉简牘在线研読会」開催報告

宗 周太郎（大谷大学文学部助教）

「战国秦汉简牘在线研読会」は、京都大学・武漢大学・ソウル大学の三大学が合同で開催しているオンライン研究会である。戦国時代から秦漢期を対象に、主に簡牘史料を用いた研究報告を行い、国際的な交流を行っている。参加者は戦国秦漢期の古代史研究者や博士課程の学生を中心に構成され、年四回の頻度で開催されている。

2023年6月、本研読会は第十回を迎えることとなった。以下、本研読会の開催経緯や運営概要、過去の報告題目について報告する。

(1) 日時：2023年6月13日（火）日本時間14:00～17:00（北京時間13:00～16:00）

(2) 開催方法：オンライン（Zoom）

(3) 参加費：無料

(4) 使用言語：中国語

(5) プログラム

①宮宅潔（日）：岳麓〔伍〕48-51簡所見“嬰算多者為殿”小考

②方允美（韓）：從司寇的來源來看刑罰細分化過程

③黃浩波（中）：封裝有無與書檄之別

質疑応答・総合討論（司会：李周炫（韓国））

(6) 主催：战国秦汉简牍在线研读组

1. 発足経緯

本研読会の前身は、2019年6月11日、ソウルにおいて開催された「第一届秦汉法律国际学术会议」であった。ソウル大学の金秉駿教授が発起人となって、京都大学人文科学研究所の宮宅潔教授、武漢大学簡帛中心の陳偉教授の三名が集まり、日中韓の研究交流を企図したもので、当初は一年おきに開催する予定であった。しかし2019年末に始まる新型コロナウイルスの流行はこうした国際交流の形を大きく変えることとなった。対面で開催することが困難になったため、2020年12月3日に開催された「第二届秦汉法律国际学术会议」はオンライン上で行われ、前述の三教授が報告を行った。

このように当初は旧来より親交のある三教授を中心に始まったものだったが、「第二届秦汉法律国际学术会议」のオンライン開催成功を受け、陳偉教授が若手研究者も含めた発表の場として、本会議の定期開催を行ってはどうかと提案した。この提案を受け京都大学・武漢大学・ソウル大学の三大学によるオンライン研読会である「战国秦汉简牍在线研读书会」が発足することとなった。記念すべき第一回战国秦汉简牍在线研读书会は2021年3月16日に行われ、以後三ヶ月おきに、毎回3～4名の報告者による研究報告が行われている。

2. 運営概要

既にオンライン研究会が定着した現在において、本会の運営について詳述しても読者諸氏に有用な情報を提供できないかもしれないが、年四回の頻度で定期的に開催されるオンラインの国際研究会は希少であり、その紹介は無駄にはなるまいと思ひ、以下詳細を述べていきたいと思う。

本研読会の運営担当は武漢大学の魯家亮副教授（中国）、東亜大学の李周炫助教（韓国）、当時京都大学の博士課程であった章瀟逸氏、そして宗（日本）が務めており、各種連絡をインスタントメッセージングアプリの微信上で行っている。

今となってはすっかり定着したオンラインでの研究会だが、開催当初は手探りの状態であり、Zoomの手配や司会進行、参加者把握など各担当者が協力しあって進めてきた。特に魯副教授は参加者名簿や本会の開催概要の作成を、李助教はZoomの手配を担当され、最初期の牽引役として多大な尽力を頂いた。第一回研読会の司会を宗が担当して以降、宗、李、魯の三名で司会を輪番し、現在まで会が開催されている。

三ヶ月に一回の頻度で行われている本会は、概ね一月前くらいに運営スタッフが微信で連絡を取り合い、それぞれの大学から発表者を選定、2週間前くらいに題目を、本番数日前を目処にレジユメを提出するというスケジュールになっている。

本研読会は全て中国語で進行しており、発表者は中国語のプレゼンテーションやレジユメを準備した上で、主に中国語によって報告を行う。一人あたり30分程度の報告を行い、質疑応答30分弱、時間が

余れば最後に総合討論の時間を設けるという流れになっている。なお、当初は開会の辞や閉会の辞を設けていたものの、現在では報告や質疑応答の時間を十分に設けるためそうした挨拶は省略されている。

第一回は四人の報告を行ったが、討論時間の確保が難しいということで第二回以降は原則三人の報告となっている。参加者については、学生の卒業などで減ることもあるが、回を重ねるごとに増え、現在では50人近くが参加者名簿に名を連ねている。必ずしも全員が毎回参加するわけではないが、それでも各回30人前後が参席し、活発な議論が行われている。

日本側は通訳を章瀟逸氏に依頼し、質疑応答を中心に通訳をし、中国語での会議進行を可能としている。また、中国語の母語話者でない参加者も多いため、質問はチャット欄で行うよう頼むなどをして円滑な運営を心がけている。議論が白熱してくると通訳に割く時間が制限されるが、そうした事が起きる程度には活発な場として機能しているということが言えるかと思う。

ようやく新型コロナウイルスによる移動制限も緩和されはじめ、各種シンポジウムも対面で開催されるようになってきている。再び大流行が起これなければ、今後は以前のように大々的な国際シンポジウムが開催されるようになるのだろうが、一方で我々のような小規模ながらも活発で、かつ身軽な国際研究会という存在の意義は失われないのではないかと思う。

3. 過去の報告題目一覧

最後に、初回から第十回までの主持人および各報告の題目と報告者の名前を列挙しておく。原則として日中韓が一人ずつ報告を行う事としているが、発表者の都合などによって多少の変動がある。(以下敬称略)

2021年

第1回：3月16日(宗周太郎、章瀟逸)

- ①陳偉(中)：試説〈法經〉“網律”實指“亡律”
- ②金龍潔(韓)：以樂人與祭祀的關係為中心—《岳麓書院藏秦簡(肆)》84-87簡的解釋
- ③黃浩波(中)：里耶秦簡牘所見的“式”
- ④楊先雲(中)：虎溪山漢簡〈計簿〉研讀

第2回：6月29日(李周炫)

- ①金秉駿(韓)：從詔令到縣吏手下的律令
- ②畑野吉則(日)：2019年懸泉漢簡の調査報告(2019年懸泉漢簡的調査報告)
- ③何有祖(中)：里耶秦簡壹、貳卷新見綴合

第3回：9月14日(魯家亮)

- ①宮宅潔(日)：秦代徵兵制度研究的現狀—圍繞基本史料的解釋
- ②金秉駿(韓)：岳麓秦簡(肆)第二組“律曰”性質探討
- ③紀婷婷(中)：岳麓秦簡“諸當得購賞賞債者皆亟與之令”復原研究

第4回：12月7日（宗周太郎、章瀟逸）

- ①宮宅潔、土口史記、安永知晃（日）：《漢簡詞彙考證》訂補三題
- ②鷹取佑司（日）：“恆署書”小考

2022年

第5回：3月15日（李周炫）

- ①魯家亮（中）：里耶秦簡 9-298+16-2032 的綴合與復原
- ②野原將揮（日）：《漢簡詞彙考證》訂補（四）—“訊”
- ③宗周太郎（日）：《漢簡詞彙考證》訂補（六）—“平賈”

第6回：6月14日（魯家亮）

- ①張昊永（韓）：秦漢魏晉之際死刑演變小考—以“斬刑”與“棄市”為中心
- ②黃浩波（中）：試說虎溪山漢簡所見“新民將蒙武”
- ③曹天江（日）：虎溪山漢簡《計簿》復原

第7回：9月13日（宗周太郎、章瀟逸）

- ①陳偉（中）：《岳麓書院藏秦簡（柒）》校讀
- ②安永知晃（日）：《漢簡詞彙考證》訂補（五）—“文母害”
- ③金秉駿（韓）：再說“及”：從“及”字看秦漢律令編撰

第8回：12月13日（李周炫）

- ①楊長玉（日）：岳麓秦簡“蜀巴”相關諸問題考辨
- ②金智恩（韓）：關於秦代佐、史的考察
- ③陳書豪（中）：西漢簡《盜律》“不當賣而和為人賣=者”解詁

2023年

第9回：3月14日（魯家亮）

- ①畑野吉則（日）：秦漢徼書考—封書是如何遞送的？
- ②王捷（中）：尋找比行事：岳麓秦簡所見“有等比”贅說
- ③金寶藍（韓）：中國古代的赦免制度與漢文帝刑法改革的意義

第10回：6月13日（李周炫）

- ①宮宅潔（日）：岳麓〔伍〕48-51簡所見“嬰算多者為殿”小考
- ②方允美（韓）：從司寇的來源來看刑罰細分化過程
- ③黃浩波（中）：封裝有無與書檄之別

以上、本研究会の報告を終える。本研究会は陳、金、宮宅三教授をはじめ、報告者や通訳、日中韓の運営担当者など多くの方のご助力によって成り立っている。改めて心より感謝申し上げる。全て中国語で運営・報告する点で中国語を母語としない研究者にとって多少ハードルはあるものの、自身の研究成果を国際的に発表する場の一つとして、こうした研究会が継続することを祈るばかりである。

《学会彙報》

○大会委員会より

(1) 2022年度第2回大会(総78回)が、2022年12月3日(土)に早稲田大学文学部(ハイブリッド型)で開催されました。

○会報委員会より

(1) これまで会報(年2回発行)は国内会員等に対して郵送して参りましたが、中長期的に見て経費節減が求められること等の理由により、2020年度からこれを学会ウェブサイトにおいて公開し、郵送を取りやめることといたしました。なお、発行回数や掲載内容等については特段の変更点はございません。ご不便をお感じになる方もおられるかもしれず誠に恐縮ですが、何とぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、会報発行の際にはこれをメールでお知らせするなど、引き続き広くお読みいただけるような工夫をして参りたいと思います。事務局にメールアドレスをご登録いただいていない会員の皆さまは、ぜひこの機会にご登録ください。

(2) 2012年7月21日に開催された臨時総会において、「中国出土資料學會著作権規定」が承認され、即日施行されました。本会報については第46号(2011年3月発行)から同規定が適用されます。対象となる各号掲載の著作物の利用に際しては、同規定の定めるところにより処理されることとなりますので、希望される方は、HP掲載の利用申請書をダウンロードして事務局まで申請してください。

(3) 年二回の大会開催時に合わせて発行される本『中国出土資料學會會報』は、新しい学術情報をできるだけ早く提供することを目的として編集されています。

会員各位におかれましては有益な情報を入手されたら、是非とも会報委員会に原稿の提供をお願い致します。中国における最新の学界動向、遺跡発掘の様様、学会参加記、新刊紹介など、広く提供するに足ると感じられた情報であれば何でも結構です。

原稿は随時受け付けておりますので、事務局宛電子メールの添付ファイルとしてお送りください。会報の内容を一層充実させるため、会員諸氏のふるってのご寄稿をお待ちしております。

○機関誌委員会より

(1) 機関誌『中国出土資料研究』の投稿は紙媒体・郵送による方式を廃止し、下記の通り行います。ふるってご寄稿願います。

・ご投稿の際は、メール(宛先: office@shutsudo.jp)で玉稿の電子データをお送り下さい。

郵便で紙媒体等をお送りになっても受理いたしかねます。

- ・ファイル形式は、WORD（～.docx または、～.doc）形式です。外字は画像データ貼付でお願いいたします。
- ・文書のレイアウトは、WORD 横書きの標準的なものでお願いいたします。レイアウトを機関誌のそれに合わせないで下さい。
- ・図表が含まれるなど、WORD ファイルのみでは玉稿の正確な内容が反映されないのであれば、そのような PDF ファイルもお付け下さい。

(2) 『中国出土資料研究』第27号の締切について

2010年度大会（2011年7月16日開催）および2011年度大会（2012年3月10日開催）にて、『中国出土資料研究』の投稿要領改定が承認されております。第28号の投稿締切日は、2023年12月末日です。ふるってご寄稿下さいますよう、お願い申し上げます。

(3) 『中国出土資料研究』の奥付について

機関誌では、その奥付記載発行日と実際の出版日との間のずれが大きいことに由来する問題が生じておりました。そこで、第20号からはその日付を一致させることになりました。最新第27号の奥付は2023年7月発行の予定です。

○事務局より

(1) 事務局では中長期的に見て経費節減が求められること等の理由により、大会案内等紙媒体の送付停止、および学会ウェブサイトとメールでのご連絡を継続することといたしました。ご不便をお感じになる方もおられるかもしれませんが誠に恐縮ですが、どうぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

(2) 年会費は、ゆうちょ銀行の以下の口座にご入金下さい。

口座番号：00180-5-13124 受取人：中国出土資料学会

なお会費は、

通常会員・準会員	年額4000円	
学生会員・海外会員	年額2000円	です。

(3) 住所変更等が生じた場合は、メールにて下記アドレス宛にご連絡下さい。

office@shutsudo.jp